

2026年度 帰国生選抜 「専門試験」出題の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			
油画	油彩の実技試験では、試験会場の中央の床上にクラフト紙を中心にものを散乱させた。シワによって生まれる起伏や、広げられた平面など、巻クラフト紙ならではの表情を作った。その紙の下には、倒した椅子やツボを見え隠れするように配置し、また、紙の上には花瓶とそれを収納する箱も敢えて並べるように設置した。全体として、梱包材ともの、さらには室内の様々な要素も同列で同等に捉えられるような状況にすることで、受験生が何に気づき、どこを見どころとしたか、その意識を問うことをねらいとした。また、実技試験は、デッサンは行わず油彩のみである。描く対象を比較的わかりやすくすることで、基本的なものを捉える力や描写力をみることも出題の意図である。	実技作品の制作意図や今後の制作の方向性、将来の展望などを質問し、日本語によるコミュニケーションの力も判断材料とした。	●
版画			
彫刻	立体造形など技術的修練が必要とされるものと、その場での発想力、両方をバランスよく見る意図で出題している。新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。社会問題に強く関心を持つ者、ひとつのワードから自由に想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。学生が「現在持っている力」も見るが、入学後に「どれだけ伸びるか？」＝自己の関心をいかに広く社会と接続していけるか？が一番の評価基準になる。	・実技試験作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること口 ・ポートフォリオの内容について個別質問	●
工芸			
グラフィックデザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	限られた試験時間の中でも、受験者が自分の考えや表現力を出しやすいように、わかりやすいモチーフを2つ選んでいる。1つ目は、紙でできたトング（食品などをはさむ、V字型の道具）である。金属製と違って光が反射しにくく、形が見えやすいので描きやすい。先端の形に特徴があり、工業製品らしい「かたさ」も表現できる。2つ目はライムである。レモンより丸みが出やすく、球に近い形なので、初心者でも形を取りやすい植物モチーフになっている。この2つを組み合わせることで、構図のバランスの取り方、鉛筆や筆の使い方、形を正確に描く力（デッサン力）、色づかいなどが表れやすい。受験者が、自分の得意な部分＝作品の「見せ場」に時間と表現力を集中できるように工夫されている。	帰国生のみなさんは、滞在した国や期間によって差はありますが、海外経験のリアリティーがある分、日本の動きと世界の視点の両方から考えられる独自の「複眼」を持ちやすいのが強みです。社会の変化が速いく情報がほぼ同時に世界中へ伝わる中、この強みは面接でも力になるかもしれません。面接では、基本的に「美術やテキスタイルをどう考えているか」「どのような視点で作品を見ているか」を聞いてみたい、という意図があります。作品説明のあと、話題は社会・文化・暮らしへ広がり、質問の範囲が大きくなることも多いです。緊張で言葉が止まることもあるので、これまでの経験を思い出しながら、限られた時間で自分の良さが伝わるよう、練習しておきましょう。	●
建築・環境デザイン	建築・環境デザイン学科が対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行や広がりや伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	・志望理由が明確であるか ・本学科の教育内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・海外での経験をどのように活かそうとしているか	●
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース			
芸術	出題内容を正確に理解し、論述の着眼点が的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、文章を構成し、まとめる力があるか、といった点が判断基準になります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	芸術学科で何を研究したいのか、受験生の知的能力や知的関心がその研究を進めていくのに十分か、芸術の理論や歴史に関する基礎知識はもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース			
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース			